

# 折尾愛真中学校 令和3年度 学校重点目標並びに自己評価表

( 計画段階 ・ 実施段階 )

学 校 運 営 計 画				評価(3月)		
学校運営方針	キリスト教に基づく人格教育と専門教科による職業教育及び国際理解教育を行い、有能な人材を育成する。			B		
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標				
部活動生徒(特別奨学生)の学習指導と生活指導が不徹底であった。また学業成績上位層より下位層の底上げに注力した。公立高校進学の見止め策の検討が必要である。慢性的な教職員不足を解消して研修を充実させて意識改革を推進すべきである。広報活動も部活動生徒確保が中心で広報活動を充実させて一般生徒の志願者数と入学者数の増加を目指す。	基本的生活習慣を確立し、新学習指導要領に基づく学習を定着させる。	家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習(課題)」の学習サイクルを確立させる。				
		外国語(英語)を中心に「主体的、対話的で深い学び」を実践する。				
	自他共愛の精神を尊重し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。	「時を守り、場を淨め、礼を正す」教育を実践する。				
		「規範意識」を高めて相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。				
	6年間を見通した継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。	「一貫教育」の原点回帰を視野に環境整備を推進する。				
「難関国立10大学」合格を目指す進路指導を確立する。						
自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。					
	互いに「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育を実践する。					
	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学習指導	教科指導力の向上	・「教育ICT機器」を活用して言語活動や探究的な学習を取り入れた授業改革を促進する。 ・定期的な生活実態アンケートで授業改善に努め、生徒の「授業満足度」100%を目指す。	B	B	教育ICT機器を使用したオンライン授業に取り組んだ。生活実態アンケートの「授業満足度」は71.2%だが、家庭学習時間1時間未満数が減少した。次年度は学習サイクルを徹底して家庭学習時間を確保し、授業満足度を向上させる。	
	学習意欲の向上	・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「出席率」100%を目指す。 ・生活アンケートにおいて「家庭学習時間 1時間未満」生徒を減少させ、学習習慣の改善を図る。	C	B		
生徒指導	規範意識の向上	・「5分前行動」「制服の着こなし」「爽やかな挨拶」が当たり前できるように習慣化する。 ・「交通安全教室」を通じて、交通ルールやマナー遵守を徹底する。	B	B	問題行動の特別指導5件であったが、SNS等の人間関係のトラブルが目立った。コロナの関係で交通安全教室の規模が縮小され、生徒会活動も消極的であった。テニス部が全国、野球部が九州大会に出場した。次年度は、感染対策を徹底した学校行事を企画して生徒会を活性化させる。	
	生徒会活動の活性化	・「生徒会」が中心になって様々な学校行事の運営できるように支援する。 ・各「部活動」において指導法等を積極的に研究して更に上位の成績を目指す。	C	B		
進路指導	進路学習の充実	・個別指導を徹底し、英語検定、漢字検定、数学検定でそれぞれ「3級合格」を目指す。 ・授業改善を図り、生徒が「ワンランク上」の進路を目指す指導を実践する。	C	C	漢検63名(準2級1名)、英検95名(準2級1名)、数検0名合格であった。愛真高校進学23名、公立推薦(特色含)16名合格であった。次年度は組織的な進路指導と高学力生徒の個別指導を徹底して、目標進路を実現する。	
	希望進路の実現	・「一貫教育」の原点回帰をするために生徒募集から高校進学までの課題を克服する。 ・高校「特進コース」と連携して国公立大学10名以上合格させる。	C	C		
その他	人権教育の充実	・「学校いじめ防止基本方針」を作成して周知を図り、いじめの再認識と未然防止を徹底する。 ・スクールカウンセラーと連携して「いじめアンケート」等でのいじめを許さない意識を高める。	A	A	スクールカウンセラーによる教職員対象のいじめ防止教室は実施したが、生徒対象の防止教室とアンケートが未実施であった。オープンスクール参加児童24名、学校説明会参加者73名であった。次年度は本校の魅力を多面的に発信して入学者を増加させる。	
	広報活動の充実	・小学校や私塾との連携を強化し、「学校説明会」参加者100名を目指す。 ・学校案内や学校公式ホームページ、学校説明会内容の質的向上に努め、「入学定員」以上を目指す。	B	B		